

『健康・医療・介護分野の連携による、
新潟県民のための「健康寿命延伸」と
「最善のケア・サポート」を実現する
新世代情報基盤』
構想【概要版】(案)

策定の趣旨

「にいがた新世代ヘルスケア情報基盤」構想は、これまで各市町村や保険者、医療機関、薬局、介護施設等がそれぞれ分散して管理していた健康・医療・介護分野のデータの一体的な活用に向けて、個人情報保護に配慮しながら情報基盤を整備し、短期・中長期的な視点におけるデータ活用の方向性を定めるものです。

目指すべき方向性

健康・医療・介護分野のデータを連携・活用することにより、「県民の健康寿命を伸ばし、いつまでも自分らしく暮らせる社会」を目指し、次の取組につなげていきます。

■ 健診・保険請求データの集約・分析によるオーダメイド型の保健指導

- 保険者間の異動が発生した場合でも、切れ目なく、個人の各ライフステージにおける健康上の問題を先制して解明し、より適切な保健指導や重症化予備群の早期発見・指導等へつなげていく。
- 集約したデータの分析結果や健康改善に資する情報等を県民にフィードバックし、健康意識の醸成・行動変容につなげていく。

■ 臨床・介護現場データの集約・連携による医療・介護サービスの充実

- 施設間の様々な局面、あるいは各施設の医療・介護従事者間においてリアルタイムで情報共有を図ることにより、限られた医療・介護資源の中で、県民がどこに住んでいても入院から在宅まで切れ目なく適切な医療・介護サービスを受けることができる環境を整備します。
- 臨床・介護現場データの活用に向け、国が進めている「全国保健医療情報ネットワーク」及びクラウド型電子カルテ導入に取り組む県立病院や県内の地域医療連携ネットワークとの連携等を目指します。

■ 情報基盤の構築による「健康寿命延伸」と「最善のケア・サポート」の実現

- 県民一人ひとりの健康・医療・介護分野のデータを連携させることにより、健康・医療・介護サービスの質の向上を図ることで、個人の健康状態等に合わせた最適な治療法や保健医療関連サービスの選択等が可能となり、県民が自らの健康状態の維持・向上に役立てることができるようにする。
- 産学官の連携により、「にいがた新世代ヘルスケア情報基盤」の活用を促進し、健康産業など新たなビジネスの創出・育成を目指します。

県民の健康寿命を伸ばし、いつまでも自分らしく暮らせる社会の構築

データを効果的に組み合わせ、活用することにより、

県民の健康づくりを支援するとともに、

県民がどこに住んでいても安心して医療・介護サービスを受けられる環境を

実現します

『オーダメイド型の保健指導』

健診・保険請求データを把握し、各ライフステージで発生し得る県民の健康上の問題を先制して改善を促します

『医療・介護サービスの充実』

臨床・介護現場データを把握し、入院から在宅まで切れ目のない適切な医療・介護サービスを県民に提供します

両者を連携

『「健康寿命延伸」と「最善のケア・サポート」の実現』

ひもづけされた両データを活用することにより研究開発を促進し、健康・医療・介護サービスの質の向上を図り、県民の健康増進に還元します

実現イメージ全体像

■ 取組① 健診・保険請求データの集約

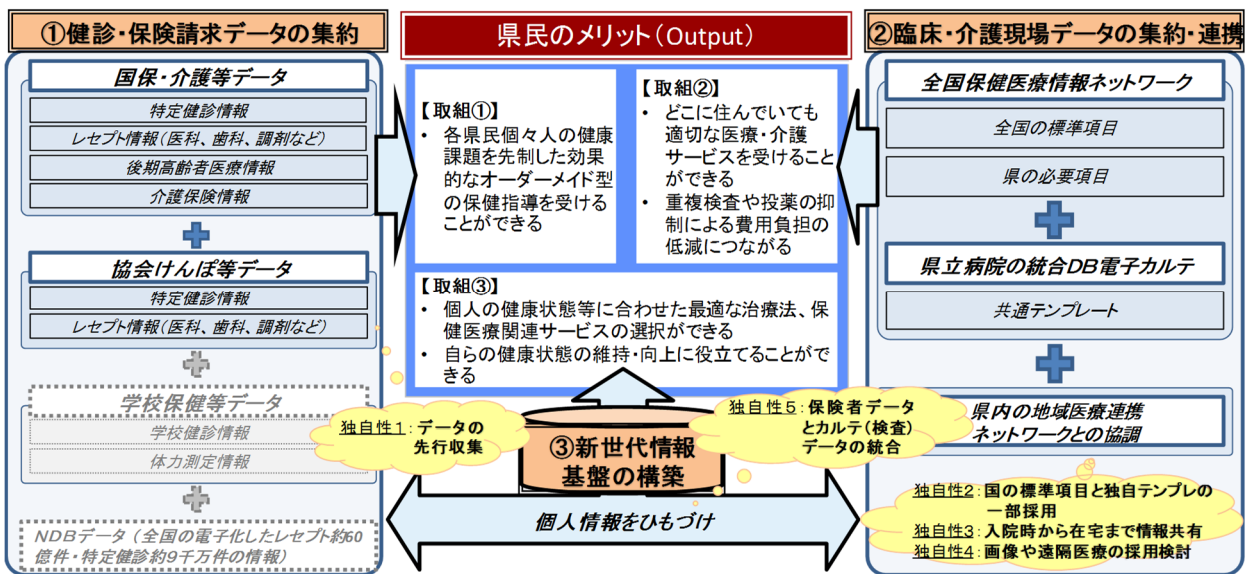
- 国民健康保険、被用者保険それぞれが個別に管理する情報を連携することにより、保険者間の異動が発生した場合でも個人のライフステージに応じた医療費・健康状態を追跡することが可能となります。

■ 取組② 臨床・介護現場データの集約・連携

- 入院・在宅・救急等の情報を一元管理し、異なる局面、職種においてリアルタイムで情報共有を図ることにより、県民に対して最善の医療・介護サービスの提供が可能となります。

■ 取組③ 新世代情報基盤の構築

- 県民一人ひとりの健康・医療・介護データが有機的に連結されるため、個人の治療経過を把握できるとともに、質・量ともに優れたデータ分析・活用により研究開発等が促進され、県民に寄り添った健康増進に寄与する様々な取組の実現が可能となります。



実現に向けた対応方針

■ データ収集

- 健康・医療・介護分野のデータを収集・活用するためには、本人(県民)同意が必要となるため、運用管理組織が保険者、医療機関などの関係機関にデータ提供の協力を依頼し、本人同意を取得します。

■ データベース整備

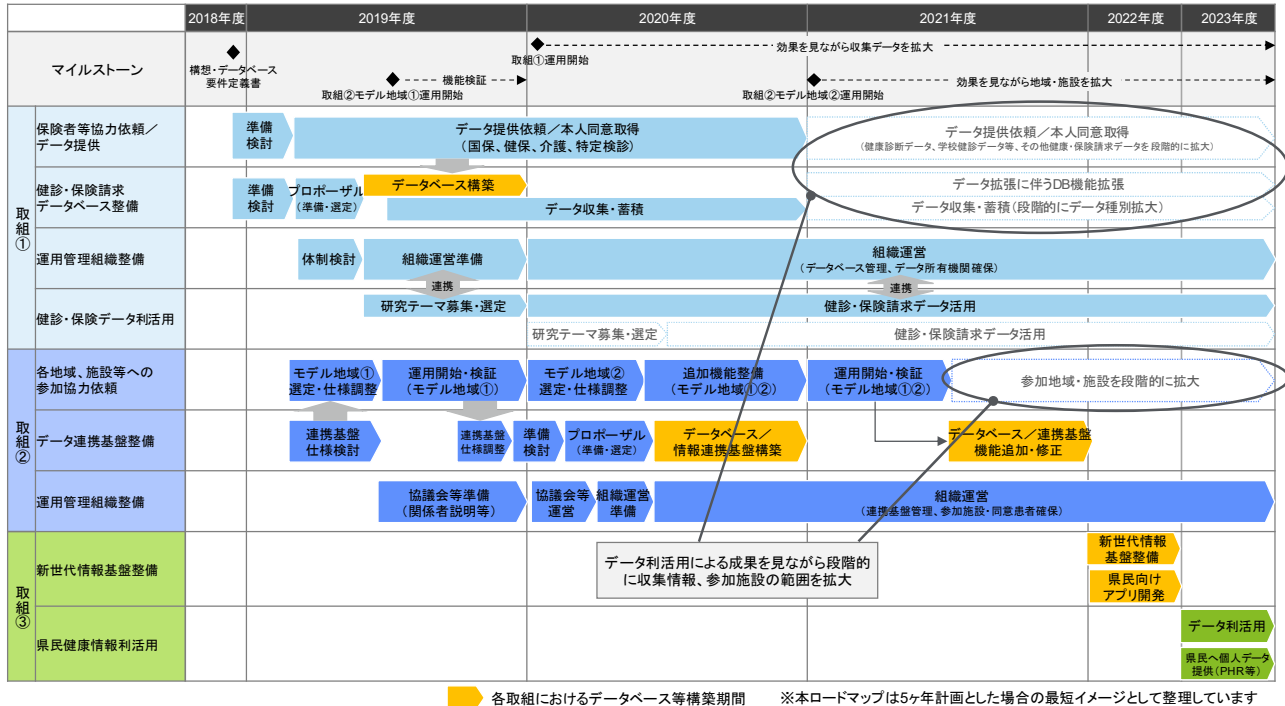
- 分析・研究テーマ等により必要となるデータが異なるため、将来的に幅広い分野でデータを活用できるようにデータ量やデータ種別の増加に柔軟に対応できる拡張性を担保したデータベースを整備します。
- 保険者、医療機関等の関係機関においても多くのメリットが得られるため、データベース整備・運用に係る費用については、当初は県が主導し、将来的には様々な財源の活用を検討します。

■ 運用管理組織整備

- 各取組の運用管理組織は、「新潟県が担う場合(県直営型)」と「その他組織が担う場合(県支援型)」が想定されますが、データ収集・活用の容易性や組織整備の実現性等を踏まえて今後検討していきます。
- 運用管理組織は、データ所有機関の参加促進やデータマネジメントを行う必要があるため、組織の人員には行政機関、健康・医療・介護等の研究分野に精通した有識者を含めて組成します。

ロードマップ

県民や関係機関に対して早期に成果を還元できるように、短期間かつ安価に実現できる取組から段階的(スモールスタート)に整備していきます。そのため、悉皆性のあるデータを短期間で確保でき、安価に仕組み(データベース)が整備できる「取組① 健診・保険請求データの集約」を優先的に整備し、「取組② 臨床・介護現場データの集約・連携」は、機能の有用性を検証した上で、段階的に参加地域・施設を拡大していきます。



短期・中長期目標

短期的には「取組① 健診・保険請求データの集約」により、経時的な経過や広域な視点によるデータ活用を行い、優先的に介入すべき対象者の抽出や地域特性を把握することで、より効果的・効率的な疾病の発症予防・重症化予防対策に繋がります。まずは、本県の喫緊の課題である「糖尿病性腎症重症化予防」、「フレイル予防」に取り組めます。中長期的には、「取組② 臨床・介護現場データの集約・連携」により、診療ガイドライン等の標準的な診療フローに則った診療支援ツールの提供や施設間の情報共有の促進により、医療の質の向上・均てん化を図り、「取組③ 新世代情報基盤の構築」により、これまで顕在化されなかった新たな予防対策が発見され、県民の健康寿命の延伸に向けた早期介入を可能とする取組に繋がっていきます。

取組① 健診・保険請求データの集約	取組② 臨床・介護現場データの集約・連携	取組③ 新世代情報基盤の構築
短期目標	中長期目標	

より効果的・効率的な疾病の発症予防・重症化予防対策に繋げる

- 時間軸のある一点のデータに基づいてリスクを判断するのではなく、過去の経過も加味した重みづけを加えることで、**優先的に介入すべき対象者の抽出(対象者のランク付け)**を可能にする

- 市町村が取り組む糖尿病の重症化予防対策、がんの早期発見対策など個々の取組に加え、**地域を越えた広域の視点でデータ分析することで、地域特性に応じた精緻な保健指導を支援する**

診療支援に資する情報共有により、医療の質の向上・均てん化を図る

- 各学会等が公表している診療ガイドラインや、**標準的な診療フローに則った診療支援ツールを提供することにより、医療の質の向上・均てん化を図る**

- 医療機関等における診療情報の共有により、医療圏を跨いだ救急受診時や在宅医療などの様々な局面で、**過去の受診歴や治療内容を踏まえた効率的かつ安全な診療を可能にする**

健康寿命延伸に向けた効果的・効率的な介入を可能とする取組に繋げる

- 疾病の発症前と治療時のデータを突合・経時的データ分析により、**これまで顕在化されなかった新たな疾病予防対策が発見され、県民に対して早期介入できる取組を可能にする**

- 介護状態以前からの経時的データ分析により、**これまで顕在化されなかった新たな介護予防対策が発見され、県民に対して早期介入できる取組を可能にする**